BAJ 東京事務所だより

お知らせ

●断捨離して服を寄付する

断捨離で出てきた不要な洋服やカバンや靴。捨てずにBAJの古着リサイクルプログラム「フルクル」に送っていただけませんか。送られた衣類等は、国内でリサイクル業者に買い取っていただき、その収益がBAJへの寄付となります。古着は海外に輸出され再利用されます。洋服だけでなく、くつ、カバン、帽子、ネクタイ、ベルト、ぬいぐるみ、タオルなども受け付けています。

［送付先］※BAJ倉庫までの送料は**送り主様負担**でお願いしております
〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜3-14-4
BAJ倉庫 日光物産気付

●古本で国際協力「本棚お助け隊」

本は20冊以上、ソフト類（DVD、CD、ゲームソフト）は5点以上から、送料無料で送ることができます。買取額はBAJの活動資金になります。

★詳細・お申込みは下記URLから

https://www.baj-npo.org/hondana.html

QRコードをスキャンしてもご覧いただけます→
またネット環境にない場合は、
東京事務所 **03-3372-9777**
までお電話ください。

●衣類、本以外の不用品は「お宝エイド」

衣類以外の不用品を役立てるなら「お宝エイド」という寄付の仕組みがあります。
今はもう使わない、大切にしていた貴金属やカメラ、集めていた切手やコインなどがあれば、ぜひ送ってください。「お宝エイド」が買い取り、その売上額がBAJに寄付されます。

★詳細・お申込みは下記URLから

https://www.baj-npo.org/otakara-aid.html

QRコードをスキャンしてもご覧いただけます→
またネット環境にない場合は、
東京事務所 **03-3372-9777**
までお電話ください。

●書き損じ葉書・未使用切手を集めています！

書き損じハガキや未使用切手を集めて、支援活動のために活用しています。ぜひ、東京事務所までお送りください。

［送付先］
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21
新都心マンション303号
認定NPO法人ブリッジ エーシア ジャパン東京事務所行

ありがとうボランティア 2020年10月～2021年1月

データ入力／封入／翻訳／ベトナム会議・打合せ／ホームページ更新など

◇笠島 美善　◇岡 昭宏　◇篠原 隆法
◇兵藤 アキ　◇松谷 芙佐子　◇樋口 晴香

（敬称略・順不同）

東京事務所の動き 10月～12月

10月

- 6日 JICA岡下氏面談（新石、大野 於：東京事務所）
- 7日 松原氏夫妻来所（根本 於：東京事務所）
- 15日 UNHCR オンライン会議（新石、神永、相葉 於：東京事務所）
- 16日 初田製作所 生田氏オンラインCSR打合せ（新石 於：東京事務所）
- 26日 eCenter オンライン安全研修（相葉）（～30日まで）
  西本願寺 宇野氏来所（新石 於：東京事務所）

11月

- 1日 相葉入職
- 5日 岡崎入職
- 11日 ボランティア説明会（新石 於：東京事務所）
- 13日 Tokyo deli尾沢氏オンライン面談（新石 於：東京事務所）
- 16日 今村入職
- 17日 シャンティ召田氏オンライン打合せ（新石 於：東京事務所）
- 20日 オンラインボランティア説明会（新石 於：東京事務所）

12月

- 4日 ボランティア説明会（新石 於：東京事務所）
- 12日 オンライン理事会及び活動報告会（根本、大野、新石、鶴田、岡崎、相葉 於：東京事務所）
- 14日 河原氏来所（新石 於：東京事務所）
- 15日 政策金融公庫打合せ（根本、新石 於：政策金融公庫渋谷支店）
- 16日 ボランティア説明会（新石 於：東京事務所）
- 17日 JICAオンライン安全対策研修（相葉）
- 18日 オンラインボランティア説明会（新石 於：東京事務所）
- 24日 オンラインボランティア説明会（新石 於：東京事務所）

編集後記

■ 春が来ました。ミャンマーでは、暦の新年を祝う水掛け祭りがやってきます。
国を代表する花木「Padauk（パダウ）」の花が、あちらこちらで咲くころです。人々はこの黄色い花を生けて楽しみ、女性は黒髪を飾ります。ミャンマーに住むすべての人が、心穏やかに季節を楽しめる日が来ることを願っています。（bikatsu）

■ 新型コロナウイルス、浸水被害。自然の猛威の前に人間ができることはわずかだと実感します。社会的な状況についてはどうでしょうか。BAJとして私たちにできることを進めていこうと思う一方で、心持ちを強く保つことが難しいときもあります。これを記している時点ではミャンマーの情勢は深刻になるばかりの状況です。無力さを感じ、胸が痛みます。（S）

■ 10年前の3月11日の記憶がよみがえります。
東京事務所では大きな余震のたびに、大切なものを詰めたカバンを持って、事務所の外へ避難しました。書棚が倒れて書類が散乱した程度でしたが、東北地方では想像を絶する大きな被害が進行していたのです。復興のための事業が進められましたが、10年を経た現在でも、これで終わりということはないのだなと思います。与えられた日常を、しっかりとこなしていく毎日です。（ね）

BAJ通信 139号 2020年10月・11月・12月

発　行　ブリッジ エーシア ジャパン
発行者　根本 悦子
編　集　新石 正治
住　所　〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21 新都心マンション303号
ＴＥＬ　03-3372-9777（代）
ＦＡＸ　03-5351-2395
E-mail　info@baj-npo.org
ＵＲＬ　http://www.baj-npo.org

デザイン・編集　バトンプロダクツ株式会社

会員募集

会員になってBAJを応援してください
個人会費：10,000円／年　団体会費：30,000円／年

サポーター募集

BAJまるごとサポーター
月々 1,000円から、BAJを継続寄付で応援します

輝けアジアの子ども基金
月々 2,000円から、アジアの子どもたちを継続寄付で応援します

※お申込みはホームページ、もしくはBAJ東京事務所まで

受付先

クレジットカード
BAJホームページより、会費・サポーター・ご寄付のお手続きが可能です

振込先

ゆうちょ銀行
郵便振替口座 00130-1-739924　郵便口座名 ブリッジエーシアジャパン

三井住友銀行 新宿西口支店
普通 3994814　口座名 トクヒ ブリッジエーシアジャパン

楽天銀行 ワルツ支店（204）
普通預金 7025837　口座名 特定非営利活動法人 ブリッジエーシアジャパン
フリガナ トクヒ）ブリッジエーシアジャパン

寄付・募金

BAJ寄付 BAJの活動全般を支えるご寄付です

※ご寄付の地域指定も可能です。以下の活動に活用されます。

◆会員・サポーター・年間3千円以上ご寄付いただいた方には、年4回BAJ通信をお届けします。◆BAJは認定NPO法人です。すべてのご寄付は税の優遇措置の対象となります。

ミャンマー	井戸や学校の建設、女性の生活改善プログラム、職業訓練の実施など
ベトナム	都市貧困地域の学習支援、環境教育、循環型農業の促進、直売所の支援など

BAJ 通信

アジアにかける橋

認定特定非営利活動法人
ブリッジエーシアジャパン

NO.139
Spring

直売所の畑を管理している若き農家フン氏（奥）とBAJベトナム人スタッフ（手前）。
「フエの農家の暮らしを人々に説明する際には伝統的な衣装を着たい」フエのスタッフのアイディアです。
昨年はコロナで畑訪問イベントを実施できませんでしたが、今年はできますように。

MYANMAR

ミャンマー事業報告
Report from Myanmar

学校建設事業の再開

相葉　翔太／ミャンマーマウンドー事務所・プログラムマネジャー

日本財団助成による学校建設事業は、コロナウイルス感染拡大の影響により8月以降中断、あるいは未着工の状態が続いていました。なかなか先行きが見えないなか、ようやく12月に政府から活動許可が下り始め、現在建設を再開しています。

ラカイン州北部では3校の建設を予定し、1月中旬に無事すべての建設を完了することができました。ラカイン州全体としては16校の予定のうち現在12校の建設が完了し、残すところ4校の建設を継続中です。いずれも90%ほどの進捗達成率で、2月中の完成を目指しています。

一方、PTA強化研修や防災研修などのいわゆる密な状況を生むような活動については、未だ活動許可が下りておらず、3月以降実施できていません。こういったソフト面での活動もこの事業における大きな柱の一つなっており、一日も早くこちらの事業も再開できることを願いつつ引き続き状況を見守っていきたいと思います。

ミョーマ西区 新校舎 建設前

ミョーマ西区 新校舎 完成後

ミョーマ新校舎の引渡式

クートーセイ 新校舎 建設前

クートーセイ 新校舎 建設中

クートーセイ 新校舎 完成後

支援ニーズ即応事業の進捗

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）との難民帰還促進のための「支援ニーズ即応事業」（通称QIP）も8月以降活動が中断していました。3か所での建設が中断し、許可されている一部事業を継続しながら再開に向けた準備を進めるに留まっていましたが、11月に入りようやく許可が下り、事業を再開しました。2020年はマウンドー、ブティドン郡内の8つの場所での給水設備、連絡道路、学校の修繕・建設を完了しました。年度内に完了できなかった事業は次年度に引き継ぎ、新たな場所での現地調査と合わせて進めています。またコロナ禍で立場の弱い人たちはより大きな影響を受け、同時にそういった人々に対する支援の必要性も高まっています。

「支援ニーズ即応事業」は道路建設などを通して、現地で支援を行う他団体の活動をも支えています。コロナ禍でいつまた活動が中断されてしまうか先が読めませんが、まずはスタッフの安全を守り、万全の対策をとりながら事業を進めていきたいと思います。

マウンドー・ニャウンチロウン村の連絡道路建設

昨年12月25日に工事を再開

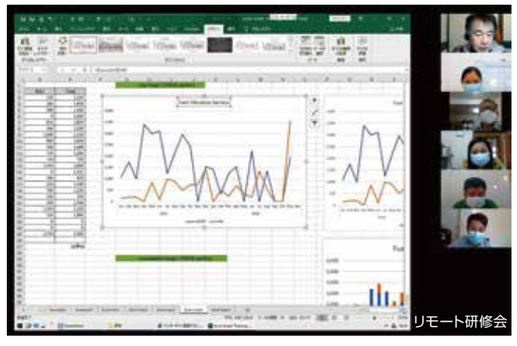
進捗確認するマウンドー事務所スタッフたち

エクセルでグラフをつくる、リモート研修会を実施

大野　勝弘／東京事務所・海外事業部

昨年12月から、ヤンゴン事務所のスタッフ6人を対象に、グラフ作成の研修会をZoomでおこなっています。ミャンマーで拡大したCOVID-19の感染状況把握のため、9月からヤンゴンの一スタッフに、保健・スポーツ省が発表する国といくつかの州・管区の陽性・回復・死者のデータを追跡してもらっています。当方が作った表とグラフのエクセル・ファイルに、毎日データを入れ更新、関係者に配信してもらっていたところ、ヤンゴンのスタッフ達から「こんなグラフを自分たちでも作れるようになりたい」との声が上がり、研修会を始めたものです。

始めてみてわかったのですが、スタッフの多くは事象やデータの種類によってどんなグラフで表現するのかや、グラフ化のためのデータセットをどのように表に落とし込むのかなどがわからないようでした。少しずつではありますが、現地スタッフの能力向上をこれからも図っていきたいと思います。


リモート研修会

ミャンマーでクーデター起きる

根本　悦子／ BAJ 代表理事

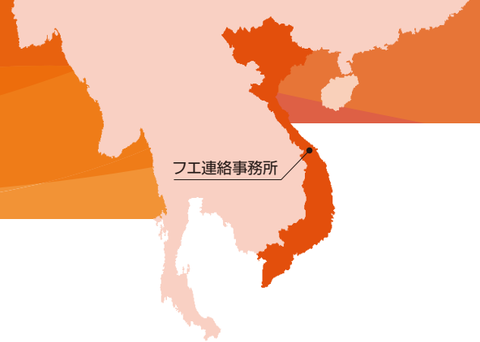
皆様もご存じの通りミャンマー国軍は、昨年行われた総選挙に不正があったとして、2月1日クーデターを起こし、スーチー国家最高顧問をはじめ、政府要人など多数を拘束しました。市民の抗議デモが拡大するにつれ、国軍の取り締まりもエスカレートしており、死傷者も多数でています。現地スタッフに対しては、安全に留意して冷静に事業を進めるようお願いしています。

現在、コロナ禍で日本人職員が入国できないなかで、ラカイン州活動については毎日のように現地と連絡を取りながら、一部の活動を除いて進めています。通信状況は今のところ地域差があるようですが、事業については、できるところから進めています。

BAJがラカインで活動を開始した1995年前後は軍事政権でした。初めての海外での活動で戸惑うことも多かったのですが、BAJの使命は、現地で困っている人たちに寄り添い、一緒に汗を流しながら、できるところから少しでも改善していこう、というものです。この方針は現在も変わりません。これからも可能なかぎり現地での活動を粛々と進めていきます。

1月のヤンゴン事務所の様子
2月現在は安全のために基本的に在宅勤務にしています。

1月のラカイン州タウンゴップ事務所が使用している資材倉庫の様子。
2月現在も建設事業は順調に進捗しています。



ベトナム フエ市浸水被害緊急支援

新石　正治／東京事務所・事務局長

昨年10月半ばからベトナム中部を豪雨と台風が襲い、数十年に一度とされる大規模な洪水被害、浸水被害が発生しました。BAJが活動しているフエ市でも大きな被害があり、フエ市の外務局から支援要請がBAJに出されるほどでした。このような事態は初めてのことでした。

BAJでは10月23日から緊急支援募金を行ない、すぐに被害状況やニーズ調査を開始して活動を実施しました。ご寄付をいただいた皆さまに改めて御礼申し上げます。以下、時系列にそって活動をご報告します。

（1）被害にあった農家への支援

11月2日より特に農作物への被害が大きかった農家8軒に対して救援金（200万VND～600万VND）を配布しました。一部を紹介します。

農家タンさん
「援助していただき、ありがとうございます。畑を修繕して収穫できるようになったらフエの直売所に早く野菜を届けたいです」

農家ディンさん
「本当にありがとうございます。困難な時です。ですが、あなた達はそれを和らげてくれました」

（2）被害のあった学校への支援

11月19日には被害のあった学校の一つであるファムクアンアイ中学校に対して、浸水被害地域に住む生徒たち用の防災ライフジャケット50着、停電時に使用できる小型発電機1機、予備の参考書や教科書等の本138冊と保管用本棚を寄贈しました。

（3）外務局を通じた支援活動の開始

12月初旬には支援要請のあった外務局へ困窮世帯向けの支援金を届けました。こちらは2月の旧正月（テト）以降、各世帯へ支給を行なっていきます。BAJ職員も同行予定です。

（4）モニタリングと農家への追加支援

12月23日には上述の救援金支給の農家のモニタリングを行ない、復旧状況の確認をしました。野菜の収穫量も回復して、浸水時に避難させていた家畜も順調に育っていました。

一方、日常生活に復帰できていない農家も多くある状況で、BAJではさらに支援対象を拡大して追加支援を実施することを決定しました。フエ市当局からの情報提供を受けながら、12月末から1月にかけてフエ市中心部から離れた山間地域など7つの村で農家の調査を実施しました。

調査前は、農業関連物資の配布を検討していましたが、調査で明らかになったのは家屋や家畜小屋の損壊の修理に、すでに借金をして対応している実態でした。農家はそうした復旧作業にかかった借金の返済に苦慮しており、それが農作業を含めた生活全般に影響していました。

現地行政の担当者からの助言もあり、11月と同様に救援金の配布を検討しています。こちらは旧正月までに支給を完了する予定です。

昨年10月半ばから豪雨と台風が
ベトナム中部を襲った。写真はフエ市内

洪水被害で損壊した家壁を補修

フエ中心から50km離れた
フォンミイ村での農家世帯調査

ファムクアンアイ中学校へライフジャケットを寄贈

同中学校へ停電時に使用できる小型発電機を寄贈

農家タップ氏。洪水被害から回復したみかん畑

防災教育授業をおこないました

新石　正治／東京事務所・事務局長

2月2日からBAJが環境教育活動を実施している3つの小中学校で防災教育の授業を順次おこないました。

今回の防災教育授業は、以下の3点を学ぶことで、洪水が自分たちにとっていかに危険であり生活にも大きな影響をもたらすかを子どもたちに知ってもらうことを目的としました。

①洪水がどのようにして起こるのかを理解する。
②洪水の時に何をすべきかを理解する。
③洪水の時に自分の身を守るためのライフスキルを習得する。

また、授業はベトナム政府やフエ行政が出しているガイドライン等を参照しました。くわえて子どもたちの興味を引くためにゲームを取り入れることで、より学びやすいように工夫しました。フエの人々は洪水とともに暮らしてきた文化があります。子どもたちはとても活発に授業に参加していました。

さらに、今回皆さまからのご寄付の一部を活用して、防災も含めたライフスキルに関する図書を小中学校に寄贈いたしました。改めましてありがとうございました。

イスをUの字型にして授業開始!

ベトナム人スタッフが作成したスライド

子どもたちは積極的に参加してくれました

防災の知識をジェスチャーゲームで学ぶ

感謝状の作成

毎年恒例、輝けアジアの子ども基金サポーター（通称アジ子サポーター）の皆さまへ、フエの子どもたちが感謝状をつくりました。アジ子サポーターの皆さまにはBAJ通信が届く頃にはすでにお手元に届いていることと思います。

今回のサンクスレターは趣向を変えて、折り紙をつかってペーパーフラワーに挑戦しました。ベトナムには一般的に美術や図工のような授業はないため、一層楽しんで取り組むことができました。「感謝の気持ちがうまく届けばいいな」という感想をくれた子どももいました。

アジ子サポーターの皆さまには成長記録（1年間の活動記録）を一緒にお送りしています。子どもたちのインタビューも掲載しています。アジ子サポーターにご興味のある方は是非BAJのホームページまでお問い合わせください。

赤、オレンジ、紫の紙の花

日本のコロナウイルスの状況を心配するメッセージが多かったです。

いつもありがとうございます!

オンライン活動報告会を開催

岡崎　章／東京事務所・国内事業

12月12日(土)に「ミャンマーから学ぶ国際協力シリーズ5」として、オンラインによる活動報告会を開催しました。ミャンマーマウンドー事務所の神永が、コロナ禍のなか、何とか一時帰国をして、「コロナと治安のダブルパンチ!～ミャンマーラカイン州北部の現場報告」と題し、約40名の参加者の皆さんへ報告をおこないました。

BAJが現在ラカイン州で実施している事業は、①車両など機械類の整備事業、②支援ニーズ即応事業、③学校建設事業の3事業です。②の事業は具体的には、生活環境整備を目的に、道路や井戸建設、貯水池や給水設備建設などのインフラ整備をおこなってきました。

ところが同州では、2019年ころから武装勢力「アラカン軍」と政府軍の衝突が頻繁に起きるようになり、治安状況悪化のため、BAJが継続して進めてきたインフラ整備や学校建設などの多くについて中断せざるを得ませんでした。

さらにミャンマーでは、2020年より徐々に新型コロナウイルス感染が広がり、4月の第一波は何とか抑え込めたものの、ラカイン州では8月末頃から再度感染が広がり、町なかでの行動規制が厳しくなりました。

そうしたなかで現地スタッフは、各自が感染防止に努め、東京オフィスとオンラインによる頻繁なコミュニケーションを交わしながら、それぞれの立場で今できることを、着実に進めていこうと、これまでよりも自主的、積極的に従事してくれるようになりました。こうしたことを中心に神永がプレゼン資料を使いながらご説明しました。

なお2021年2月1日、国軍によるクーデターが起き、ビザ発行停止や航空機発着の制限など、出張や専門家派遣などが困難となっています。そのなかでも現地職員はできるところから事業を進めています。

神永は写真の腕前がプロ級!
駐在時はたくさんいい写真を撮ってくれました。

BAJにとって初めてのオンライン活動報告会でした。
ZoomというWeb会議ツールを使いました。

BAJの人

Bridge Asia Japan STAFF

相葉 翔太

こんにちは。11月よりBAJに入職した相葉です。昨年3月までヤンゴンでJICA海外協力隊として活動をしていました。その間多くの事を学ばせてもらったミャンマーに、またこうして関ることができることをとても光栄に思います。皆様の支援をしっかり現地に届けるよう、活動していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

なかなか落ち着かないミャンマーの情勢ですが、まずは一日も早く落ち着くことを祈ります。

今村 恭介

昨年11月にBAJへ再入職しました今村恭介です。以前は、2014年から2018年まで、BAJ東京・ヤンゴン・マウンドー事務所で勤務し、主にミャンマーラカイン州での事業に携わっていました。一度BAJを離れた後、イギリスの大学院で教育と平和構築について学び、またBAJに戻ってきました。所属はミャンマーヤンゴン事務所ですが、Covid-19により渡航が制限されているため東京から遠隔で現地業務を行っています。ビザ取得次第、ミャンマーに渡航予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍での理事会開催

根本　悦子／ BAJ 代表

12月12日、オンラインによる2020年度第3回理事会を開催しました。理事10名中6名の参加を得て、ミャンマーとベトナムを中心に東京などの事業進捗を報告し、また資金の調達状況などを説明しました。さらに2021年度の事業計画および予算が提案され、問題なく承認されました。理事からは、事業地のコロナ感染拡大の状況などの質問を受け、ミャンマーとベトナム各国の取組み状況を説明しました。

また当日参加された理事からは、それぞれの所属する団体で、どのようにコロナ禍での事業運営を進めておられるのか、お話しいただきました。とくにオンラインでの取組みについては、新しい可能性とともに課題も指摘され、今後の事業運営の参考となりました。

東京オフィス

集合写真